

Museum News

Planning Office



絵：柳田基

関西学院創立 125 周年を記念して時計台を大学博物館へ

2014 年秋の開館をめざして

開設準備室の活動をふり返って

博物館開設準備室が設置されて5年目になります。この間に、博物館の開設準備のためにさまざまな活動をおこなってきました。そのメインとなるのが年2回の企画展示です。2008年秋の「原野コレクションⅠ 本に貼られた版画 蔵書票の美」をかききりに、これまでに8回の企画展示をおこない、この秋は9回目の「新劇、輝きの'60年代 大阪労演とその時代Ⅱ」を開催中です。

蔵書票の原野コレクション、大阪労演資料、アンデス染織コレクションなど博物館開設準備室が管理する博物館資料を中心に、大学や高等部、中学部の校内に飾られている絵画を集めた「関西学院所蔵の絵画Ⅰ 誰もやらないことをやれ! 現代に受け継がれる吉原治良の精神」「関西学院所蔵の絵画Ⅱ Art of the Bible - 視る聖書の物語 -」、あるいは連携協力の提携をしている瀬川美術館との共催展「浪連百景 大阪名所案内」などもおこないました。そして、企画展示のたびに展覧会図録を発行し、また記念講演会も開催してきました。

さらに、黒川古文化研究所や白鶴美術館など学外の博物館関連機関と連携し、高精細デジタル画像を活用した公開研究会も継続してきました。

博物館相当施設をめざして

準備室の段階でこのような諸活動をおこなってきたのは、関学の大学博物館が博物館法で定められた博物館相当施設をめざしているからです。

博物館相当施設の指定を受けるためには、事業や運営、職員、所蔵資料、施設設備などさまざまな要件を満たさなければなりません。例えば、事業については、展示を定期的におこない、関連の印刷物を発行し、講演会

などを開催することが求められます。博物館の根本となる所蔵資料については、その収集と保存、展示および調査研究をおこない、資料が常に整理分類され保管されている必要があります。そして、このような活動を推進するには、博物館の専門職である学芸員が不可欠です。

また、博物館は広く社会教育を実践する機関として、学内だけでなく、学外にも門戸を開かなければなりません。博物館開設準備室通信(本誌)では、展覧会ごとにアンケート統計を発表してきました。この統計からもわかるように、観覧者は関学生はもとより、学外の利用者も少なくありません。しかし、入場者数全体としては、まだまだ少なく、広報活動を活性化するなど集客方法には課題を残しています。

博物館として開館して以後、魅力的な展覧会を開催するとともに、関学の大学博物館の存在意義をアピールしていかなければなりません。

2013年に時計台を改装

現在開催中の展覧会「新劇、輝きの'60年代 大阪労演とその時代Ⅱ」は、博物館開設準備室として最後の企画展示となります。来年度の一年間は、企画展示を休止し、博物館の開館をめざして時計台内部の改装をおこないます。時計台の2階には、常設・企画展示室や博物館学芸員課程の実習室を設けます。

ヴォーリズ建築の代表作である関学の時計台はすばらしい建物ですが、博物館施設として見た場合、空調設備などいくつかの問題がでてきます。その難問を解決しつつ、ヴォーリズが設計した時計台が博物館の展示空間としてどのように生まれ変わるか、ご期待ください。

(博物館開設準備室長 河上繁樹)

2012 秋

展覧会／講演会

展覧会

新劇、輝きの'60年代

大阪労演とその時代Ⅱ 1960-1969

2012.10.22 (月) ▶ 12.21 (金)

10:00 ▶ 16:30 (受付は16:00まで)

日曜祝日休館 ※但し11.3 (土・祝日)は開館

於: 関西学院大学

西宮上ヶ原キャンパス

時計台2階展示室(入場無料)

講演会

「高度経済成長時代における大阪労演」

講師: 河内 厚郎 氏

(演劇評論家・神戸夙川学院大学教授)

2012.11.3 (土) 13:30 ▶ 14:30

於: 西宮上ヶ原キャンパス

大学図書館ホール(聴講無料)

名作舞台上映会 ※DVD上映

「ハムレット」10月27日(土)

「炎の人〜ゴッホ小伝」11月17日(土)

「女の一生」12月8日(土)

於: 西宮上ヶ原キャンパス

大学図書館ホール(入場無料)

展覧会期間中、上記三劇のDVD上映会を開催致します。詳細は4頁をご参照ください。

展覧会報告

アンデスの デザイン

文字を持たなかったアンデスの人々。それ故にユニーク且つ想像力豊かで独特のデザインが染織品に遺されました。可愛らしいキャラクターの案内に従ってこうしたデザインの数々を楽しんでいただく展覧会を開催しました。

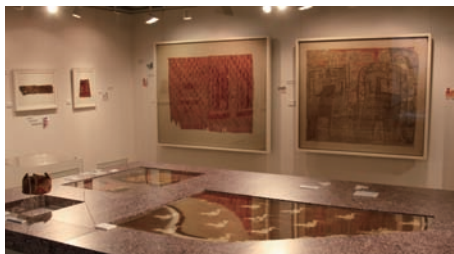
2012.4.2 (月)▶6.9 (土)
10:00～16:30 (日曜祝日休館)
関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
時計台2階展示室
入場者数 3078人
記念講演会参加者数 93人



寄贈コレクションを初公開 関学でアンデス染織の 展覧会を開催

2014年、関学125周年記念事業の一環として博物館オープンを目指し準備中の本室は展示室といえども十分な温湿度管理ができていないわけではありません。このような状況下で展覧会を運営するには他館への出品協力のお願いが難しく、連携協力を結ぶ颯川美術館所蔵「浪花百景」の陳列を除いてこれまで関学の所蔵品のみで構成する展覧会を企画してきました。そのような事情をご存知の方ならば関学でアンデスの展覧会が開催されると聞いて驚いた方もいらっしゃるでしょう。

古代アンデス染織の一大コレクションが本室に寄贈されたのは2011年夏のことです。染織品の展覧会は2009年春季に「復元江戸時代のきもの いまとむかしの職人技」を企画したことがありますが、アンデスの染織品は使われる素材、技法、表現される文様の全てが日本のものと異なります。染織品を扱う準備室スタッフにとっても馴染みの薄い資料を前に展覧会オープンまでの約半年間、一から勉強しながら調査を進め、本展覧会を企画構成しました。



展示に工夫 キャラクターが案内役

本展覧会ではアンデスの染織品に見られる文様に注目しました。文字を持たなかったアンデスの人々が作り出した染織品には実にユニークな文様表現が見られます。動物と人間が合体した神像、アンデスの山間に棲息するピューマ、コンドル、蛇、鳥、魚などの動物がどことなく愛嬌のある姿で表されています。展示資料の多くは死後の生活の存続を祈って墓に埋葬された副葬品と思われませんが、こうした品々からはアンデスに棲息した動物や人々の生活形態、そして彼らの自然に対する信仰心や確かな観察眼を感じ取ることが出来ます。



日本と南米アンデス山脈という遠く離れた土地の文化をより親しみを持って見ていただくために、今回の展示ではある試みを行いました。通常150字程度の文語体で書かれることの多い資料解説の設置をやめ、展示資料から抜き出したデザインをキャラクター化し、そのキャラクターが会話する形式のセリフ仕立てで資料の見所を簡潔に紹介しました。この試みは「解説がわかりやすかった」と概ね好評を得ることができましたが、染織技法の説明など伝わりにくいところもあり、今後の展示方法を考える上でのひとつの課題となりました。

記念講演会 アンデスの染織



会期中の5月12日(土)には世界各地の染織品の修復保存に長年携わってこられた梶谷宣子先生(米国メトロポリタン美術館終身名誉館員)にアンデスの気候風土、染織素材、各地域の織物の特徴、染織品の遺存形態や最近の気候変化など多岐にわたる詳細なお話を講演いただきました。

本展覧会の展示資料は南アメリカ大陸の西側、太平洋沿岸地帯とアンデス山脈の山間盆地という様々な環境が混在する地域で育われました。衣服の素材には高地で飼育されたリヤマやアルパカなどの獣毛と低地で栽培された木綿が使われています。これらの素材は染めることの出来る染料が異なり、獣毛は木綿よりもより多色に染めることが出来ます。展示資料の中にもみられた印象的な赤色は獣毛にしか染めることが出来ません。赤や黄などに染められた色彩豊かな獣毛の綴織の衣服を当時は男性が着ていたということ副葬品として遺っている人形の写真などを例にお話くださり、現代の私たちの感覚では計り知れない貴重なお話を伺うことが出来ました。

観覧者の声

アンケートより

アンデスのデザイン

近くで時を気にせず、ゆっくりと見られてとても良かったです。
(一般 女性 60歳代)

「もよう」「織る技術」だけでもどれもすばらしいと思いました。「模様の意味する信仰」や「染色」「生活様式」など、まだまだ知りたいと思いました。布の切れ端にこめられた数多くのメッセージに感動しました。
(一般 女性 50歳代)

展示品の脇の解説とイラストがわかりやすくおもしろく見られた！
(一般 男性 50歳代)

今回初めての訪問でしたがまた様々な催しを期待しています。ありがとうございました。また準備室HPをチェックしたいと思います。
(一般 男性 30歳代)

大学で展示会をみれると思わなかった。
(学生その他 男性 20歳代)

知らない国の知らない文化を見られてとても興味深かった。解説(キャラクターが喋る口調のもの)が予備知識のない私にも親しみが持てましたし、分かりやすかったです。
(関学生 女性 20歳代)

大学の中に展示会があるのはステキだなあとします。また色々な展示をしてもらえたら嬉しいです。
(関学生 女性 20歳未満)

おもしろかったです。こういう展示会は始めてだったのですが、今後足を運んでみようと思います。
(関学生 男性 20歳代)

題簽の文字が小さくて読みにくかった。布のモチーフをキャラクター化しての題簽は布の中からモチーフを見いだす助けにもなるし、かわいらしくてよかった。
(一般 女性 40歳代)

学生時代の図書館、なつかしかった。
(一般 男性 60歳代)

ふっと立寄りましたがとっても楽しい展示でした。
(一般 女性 30歳代)

入場料が無料なのに、充実した内容でたのしめました。
(一般 女性 40歳代)

透明のアクリルで織物をはさむ展示方法がとても良かったです。
(関学生 女性 20歳代)

素朴なテキスタイルのなかにさまざまな技術や工夫が織りこまれていることに感動しました。透明ガラスで挟んで表裏を見られるように展示されているのがよかったです。解説してくれるアイコンたちのデザインも楽しかったです。
(関学生 男性 30歳代)

博物館開設、楽しみに致しております。
(一般 女性 40歳代)

今回はコレクションの一部との事ですので、次回もまた期待しています。
(一般 女性 30歳代)

アンケート統計

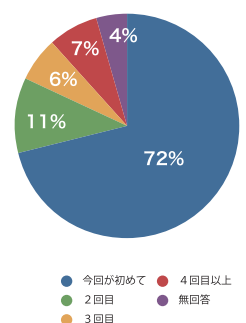
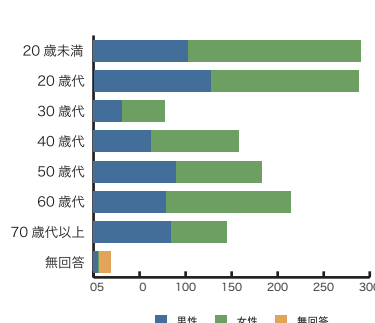
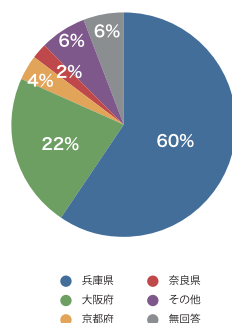
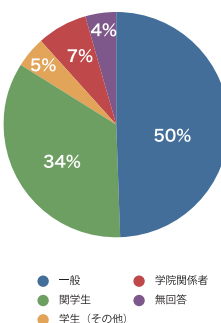
アンケート回答者数 1,372人
アンケート回収率 44.6%

アンケート回答者内訳	
一般	680
関学生	473
学生(その他)	62
学院関係者	98
無回答	59

都道府県別観覧者	
兵庫県	816
大阪府	305
京都府	51
奈良県	32
その他	89
無回答	79

年齢・男女別観覧者			
	男性	女性	無回答
20歳未満	103	187	
20歳代	127	161	
30歳代	31	46	
40歳代	62	96	
50歳代	90	93	
60歳代	79	135	
70歳代	84	60	
無回答	5	1	12

展示会来場回数	
今回が初めて	978
2回目	150
3回目	85
4回目以上	99
無回答	60



2012年秋の展覧会

新劇、輝きの'60年代

大阪労演とその時代Ⅱ
1960-1969

戦後の関西演劇文化を支え続けた大阪労演（大阪勤労者演劇協会）の視点から戦後演劇の黎明と発展を見つめた「戦後演劇の世界 大阪労演とその時代Ⅰ 1949-1959」展の開催より1年。関西学院大学博物館開設準備室は、第2回展として「新劇、輝きの'60年代 大阪労演とその時代Ⅱ 1960-1969」を開催いたします。

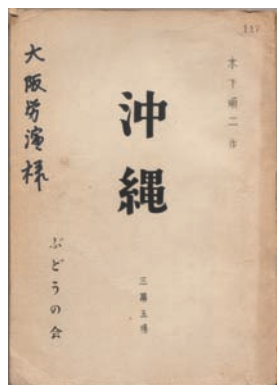
1960年代になると演劇鑑賞運動は、「全国労演連絡会議」が設立されるなど新たな展開を迎えます。こうした動きの中で大阪労演の会員数は増大し、'64年には年間平均会員数がほぼ2万人に達しました。かくして大阪労演は、'60年代半ばにその全盛期を迎えることとなったのです。しかし'60年代は、'60年の安保闘争にはじまる「政治の季節」であり、同時に高度経済

成長によって日本社会が大きく変化した時代でもありました。演劇界でも戦後世代による「新劇」批判が展開され、新劇は演劇の多様化や、団員の脱退や解散といった劇団の変化にともなって、様々な方向性を模索しなくてはならない困難な時期を迎えます。大阪労演の活動もこのような時代の影響を受け、'60年代後半になると会員数は減少に転じました。

新劇の大きな転換期となった'60年代は、戦後の名優たちと新世代の俳優たちの交点でもあります。名優の円熟した表現や新しい才能の萌芽がうかがわれる舞台の様子や、社会の影響を受けながら変化する新劇の世界を、大阪労演が残した貴重な資料を通じてご覧ください。



文学座「女の一生」 杉村春子写真



ぶどうの会「沖繩」脚本



民芸「火山灰地」舞台写真

お知らせ

公開研究会

-実物とデジタル画像による文化財考察-

第6回公開研究会

つば
「鏝の面白みを探る」

開催日時：2012年11月10日(土)
13:30～

共催・会場：黒川古文化研究所

講師：川見 典久氏

(黒川古文化研究所 研究員)

講師・司会：杉本 欣久氏

(黒川古文化研究所 研究員)

※展覧会入館者は聴講無料

本室では、今年度も京阪神の美術館等と連携して公開研究会を開催します。ここでは、これまで作成した約1万点の高精細画像を使って、作品の拡大像や類似作品との比較画面を映し出します。そして、ここから浮かび上がってくる「見える」事柄を話し合う場と致します。また同時に開催されている展覧会で、実物も併せてご覧ください。



後藤一乗 瑞雲透鏝



土屋安親 豊干禪師図鏝

名作舞台上映会 ※DVD上映

「ハムレット」

10月27日(土)

9:30 OPEN 10:00 START

出演：仲代達矢、岸輝子、浜田寅彦 他

演出：千田是也

形式：モノクロ/DVD

時間：231分

(12:30▶13:30途中休憩)

収録：1964年6月 日生劇場

「炎の人～ゴッホ小伝」

11月17日(土)

12:30 OPEN 13:00 START

出演：滝沢修、伊藤孝雄、若下浩、稲垣隆史、

大森義夫 他

演出：滝沢修

形式：カラー /DVD

時間：164分

収録：1977年3月 都市センターホール

「女の一生」

12月8日(土)

12:30 OPEN 13:00 START

出演：杉村春子、賀原夏子、宮口精二、

北村和夫、南美江 他

演出：久保田万太郎、戌井市郎

形式：モノクロ/DVD

時間：180分

収録：1961年1月 第一生命ホール

博物館開設準備室通信 第7号

MUSEUM PLANNING OFFICE NEWS No.7

2012.11.1

関西学院大学博物館開設準備室

〒662-8501

西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL 0798-54-6054 FAX 0798-54-6066